令和元年度第２回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議会議録

○ **開催日時**：令和元年11月18日（月）　18:30～20:00
○ **開催場所**：函館市本庁舎８階第２会議室
○ **出席者**
　委　員：外崎委員，中野委員，奥平委員，西田委員，八木橋委員，三島委員
　　　　（委員名簿順［６名］）
　市　側：［企画部］湯浅部長，三原室長，佐藤次長，高橋課長，高主査，
　　　　　　　　田中主査，上田主任主事

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

次　　　第

１　開会
２　議事
（１）第２期函館市活性化総合戦略の策定について
（２）函館市人口ビジョン改訂版(暫定版)について
（３）令和元年度地方創生に関するアンケート調査結果報告書について
（４）第２期函館市活性化総合戦略の骨子(案)について
３　その他
４　閉会

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１ 開　　会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（事務局　高橋課長）

ただ今から，令和元年度第２回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議を開催する。

本会議については原則公開で行い，会議内容については，開催後に本市のホームページで公開する。

また，本日の会議は，都合により２名の委員が欠席し，委員６名での開催となる。

それでは，早速議事に入る。設置要綱に基づき，奥平委員長に会議進行をお願いする。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２ 議　　事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（１）第２期函館市活性化総合戦略の策定について

（奥平委員長）

本日は４件の議題があるため，ボリュームがあるが，皆様から忌憚ないご意見をいただきたい。

それでは議事の１「第２期函館市活性化総合戦略の策定」について，事務局より説明をお願いする。

（事務局　高橋課長）

【　資料１　】に基づき説明

（奥平委員長）

それでは今の説明について，皆様から質問等があればお願いしたい。質問がないようなので，次の議題に入る。議事の２「函館市人口ビジョン改訂版(暫定版)」について，事務局から説明をお願いしたい。

（事務局　高橋課長）

【　資料２　】に基づき説明

（奥平委員長）

それでは今の説明について，皆様から質問等があればお願いしたい。

（中野委員）

前回４年前の策定の時にも意見したが，人口が減った分析をすることで将来に危機感を持ってもらいたいということだと思うが，もっと踏み込めば人口が減ったことで，高齢化が進み，人口が減った分の歳入も減る。逆に高齢化が進めば歳出が増える。そこも推計するべきではないかと考える。そのほうが危機感を感じると思う。人口が減りますだけではピンとこないと思う。１６ページの「２　若者をはじめとする雇用の場の確保」だが，実態は働く場があっても働き手がいないというのが現状ではないだろうか。４年前当時から募集しても人が働きにきてくれない。さらに４年が経ち，今ホテルが乱立しているが，募集しても働き手がなく，ホテルがオープンできないのではないかと言われている。そのため，２の「雇用の場の確保」という書き方は時代遅れであり，表現が違うと考える。仕事がないわけではない。

これも４年前に指摘したのだが，１７ページの国土交通省観光庁のデータについて，定住人口１人減少分を外国人旅行者１０人で，また宿泊２６人分や日帰り８３人分と書いてあるが，現実問題，函館に当てはめると外国人も国内の旅行者も消費額は一緒だと思っている。この計算には飛行機代などの交通費も含まれているものと思われる。現実的に函館に経済波及効果として落ちる金額は，外国人であろうが日本人であろうがほとんど変わらないと感じているため，わざわざここであえてデータを出す意味がわからない。これはそもそも国土交通省観光庁がビジットジャ

パンとして，外国人観光客を呼ぼうとアピールする資料だと思う。
（事務局　高橋課長）
　歳入歳出についても推計して明らかにすべきということについては，委員の言うとおり。今回の人口ビジョンの改訂は基本的には時点修正のみ行っているが，指摘内容も大事だと思っているので，今後施策を進めていくなかで検討していきたいと思う。
　雇用の場はあるのに人が来ないことについての書きぶりに関する意見だが，例えば事務職を希望しているが，事務職の募集がないなど，マッチングできていない状況もあると聞いている。これらも含めて，雇用の場を確保するということで広く捉えている。
　１７ページには国のデータを参考に掲載しているが，これは委員の言うとおり，交通費を含めたものになっていることから，一自治体に落ちる金額は当然少なくなると考えている。地域によって効果は違うが，交流人口の拡大は人口減少を一定程度補えると考えているので，参考ということで掲載させてほしい。
（中野委員）
　書き換えないということだが，誤解を招くことをあえて載せることにより，問題は生じないのかなと。
（三原室長）
　今回はあくまで最新の国調の数字に置き換える改訂だけと考えている。もともと５年という短いスパンで改訂の予定はなかったが，国から最新数値に置き換えるように指示があったことから，改訂した。委員の意見については，次の機会に全体を見直す時に考えたい。
　雇用の確保についても，人手不足と言われているが，若い人が求める職場，大卒の方が求める職場があまりないのが地方の課題だと思っているため，そのような書きぶりになっている。
　財務状況についてだが，１０年くらいのスパンであれば算出できないこともないと思うが，２０年や４０年というスパンでは数字の算出が難しい。次回の大規模見直しの際に，財政関係の部局と検討させていただきたい。
（中野委員）
　危機感を持ち，現実に目を向けてもらうためにあえて見せるべきと思う。「若者をはじめとする」という書き出しを「若者が求める」にしてはどうか。
（八木橋委員）
　人口が減るだけではなく，生産年齢人口がこの先大きく下がることに，労働組合で危機感がある。総花的にする余裕はないため，重点的なものにしっかり絞るべき。また，交流人口の経済効果については，先のデータが一人歩きしているが，旅行客を呼べばいいというものではなく，ハイヤー，タクシー，バスなどある意味観光に接点がある組合の仲間からは，外国人はタクシーに乗らないと聞く。そもそも先の国土交通省観光庁のデータは２０１４年のものなので，直近のデータがないのであれば載せないか，あるいは函館バージョンの，函館圏でも道南でもいいのでもう少し地域に特化したデータがいいのでは。外国人旅行者が増えたり，大型の船が入っていろんな国の人でにぎわうのはいいが，いい数字だけが一人歩きしている感は否めない。
（奥平委員長）
　１７ページの観光交流人口増大の経済効果の表は最新版ではなく，２０１７年のものが出ているのでそれを確認してもらいたい。かつて日銀支店長とも話したが，交流人口の地域への経済効果分析は地元でやらないとだめだという話が出ていた。次の時の課題として，観光客がたくさん

くればいいのか，現状維持がいいのか。関係各所と連携して，函館版をつくっていく方向性が必要であり，観光基本計画にも産業連関表があるが，よくわからない。経済部やほかの部局，日銀等と連携してつくりあげないと，本当に危機感があると言えないと思う。今回は修正のみというのはわかるが，５年後にはこの分析をしたうえで検討することを明記しておく必要があるのではないか。これはこれとして，載せるなら参考とつけること。

（事務局　高橋課長）

検討したい。

（奥平委員長）

他に意見はないか。なければ次の議題に入る。議事の３「令和元年度地方創生に関するアンケート調査結果報告書」について，事務局から説明をお願いしたい。

（事務局　高橋課長）

【　資料３　】に基づき説明

（奥平委員長）

それでは今の説明について，皆様から質問等があればお願いしたい。

（中野委員）

１５ページの行政が結婚を支援するために取り組むべきことについて，アンケート結果で最も多かったものが「安定した雇用の確保」ということだが，そもそも安定した雇用の確保とはどのようなものを想定しているのか。

（外崎委員）

同感である。抽象的な表現だと感じる。

（奥平委員長）

正規雇用なのか非正規雇用なのかなどまで規定しなければならないのではないか。

（事務局　高橋課長）

今回の調査ではこのような形での選択肢としたが，今後同様の調査を実施する際には正規雇用や非正規雇用など，明確な表現にしたい。

（中野委員）

若者が求める職は最近では事務職系が多く，カレンダー通り休める職種に偏っているが，そうなってくるとホテルなどの観光業界というのは２４時間営業で，当然土日祝日も仕事がある。観光を基盤とする函館市で，そういった理由から観光業界で働きたいという人が少ない。そこが大きな問題であるということを認識していただきたい。そう考えると，１５ページの「安定した雇用の確保」を選択した人は，休みが確保できることや，収入が安定していることなど，選択した理由は複数考えられるのではないか。何を安定と思って選択したのか，それがわかるようなアンケートにしなければ意味がないと考える。

（事務局　高橋課長）

次回以降の調査では，詳細を把握できるような内容としたい。

（外崎委員）

アンケートの選択肢が，作成者側が「このような順位になるのではないか」とわかったうえで作成しているように見えるが，いかがか。

（事務局　高橋課長）

今回の調査については，新たに作成したものではなく，５年前に実施した調査と基本的に，同

様の内容で行っている。なお，回答の傾向としては，前回と概ね同様の傾向が見られる。
（西田委員）
　満足度調査結果について，前回の調査と回答割合を比較したものは３４ページから把握できるが，性別，年齢別に比較したデータはあるか。
（事務局　高橋課長）
　クロス集計しているかどうかということだが，今回の調査ではクロス集計までは行っていないが，必要に応じて今後行っていきたいと考えている。
（西田委員）
　住んでいる場所や年齢などで，違った傾向が出てくるものと考えられるので，様々な集計を行った方がいいと考える。
（事務局　高橋課長）
　結果については他部局の施策運営等に有効なものもあるため，必要に応じてクロス集計等実施していきたい。
（奥平委員長）
　１７ページの「将来の就職希望業種」にかかる大学生の回答について，「情報・通信業」を希望している大学生が圧倒的に多いという結果が出ている。この結果を見て，キャリア教育をしっかりすべきだと感じた。
　情報・通信業の業界では現在，正規雇用がほとんど無く，外資に勢いがある一方，国内企業はほとんど非正規雇用が多い下請けに回っている。大学生の皆さんは非正規雇用でいいのでしょうか，という話になる。もちろん，情報系課程を持つ高等教育機関が多い函館市の特徴でもあるとは思うが，高専でも情報コースの倍率が下がってきている。キャリア教育として，このような現状をしっかりと生徒に伝える必要がある。教育委員会と各校が連携し，職業教育をしっかりすべきではないか。小学生では現在，観光のまち函館ということで，観光に特化した教育を実施しているが，観光のみならず，職業教育についても今後取り入れる時代になってきているのではないか。すぐに実践できるものではないため，次回，あるいはその更に次の調査や戦略改定時に向けて，検討いただきたい。
（事務局　高橋課長）
　今後検討していきたい。

（奥平委員長）
　それでは，他に質問があればお願いしたい。質問がないようなので，次の議題に入る。議事の４「第２期函館市活性化総合戦略の骨子（案）」について，事務局から説明をお願いしたい。
（事務局　高橋課長）
　【　資料４－１　】および【　資料４－２　】に基づき説明
（奥平委員長）
　それでは今の説明について，皆様から質問等があればお願いしたい。
（中野委員）
　１ページの基本目標について，市の人口減少の要因を３つ示したあと，それを踏まえて基本目標を示しているが，人口減少の３つの要因と基本目標につながりがあまり感じられないため，こ

れらの基本目標を設定した理由を詳しく説明いただきたい。

（事務局　高橋課長）

こちらの基本目標は，市で作成している市政執行方針の考え方を踏まえている。市政執行方針においては，市政の課題解決に向けて，市民一人ひとりの幸せづくりと，地域経済の強化を最大のテーマとしており，広範で多岐に渡る市政を推進するため，政策の３本の柱に沿って，施策を展開することとしたところである。第２期函館市活性化総合戦略においても，これらのことを踏まえて３本の基本目標を設定した。

（中野委員）

要するに，人口減少の３つの要因とは直接関係しているわけではないということか。

（事務局　高橋課長）

関係ないということではなく，これらの要因を解消するために必要な取組をするうえでの３本の柱でもあることから，これらを第２期活性化総合戦略においても，基本目標としている。

（奥平委員長）

であれば，その考えを明記した方がいいのではないか。このままでは中野委員の言うとおり，人口減少の要因と戦略の基本目標が繋がっていないように見えてしまう。今回は骨子であるが，次回はそのような修正をしていただくべきではないか。

（事務局　高橋課長）

検討させていただきたい。

（中野委員）

骨子の中身を確認すると，既存事業をそれぞれ振り分けているようにしか見えない。人口減少の３つの要因を解決するために始めた事業ではなく，既存事業のうち，これらの要因を改善することに寄与する事業を並べているだけではないか。骨子ということで今後，さらに具体的事業が追加されていくと考えているが，第２期総合戦略を進めるにあたって新たに実施される事業はどれほどあるのか。

（事務局　高橋課長）

予算要求の結果にもよるため，この場でどれだけと明確には申し上げられないが，今年度の予算要求も含め，本戦略策定後においても，随時新規事業を追加して更新していきたいと考えている。

（中野委員）

２ページでは，第三者による評価を実施すると記載があるが，これまでの評価では，どのような経緯で設定されたＫＰＩなのか，どのような流れでこの目標がたてられたのかなどがわからないという状況で外部評価を実施してきた。そのため，これから策定に向けては，各委員の意見等を踏まえて修正等いただきたい。

（事務局　高橋課長）

今回は骨子（案）について協議いただいているが，次回はＫＰＩ等を明示したものを協議いただくことになり，その協議内容を反映させながら，策定していきたい。

（八木橋委員）

人口ビジョンの改訂や，アンケート報告など，前段では函館市の人口減少について説明もいただいたが，その部分について注力して作られた戦略には見えない。

また，近年函館地域で話題になるのは，外国人材の活用について。この点について打ち出した

取組があると期待していたが，ところどころに外国人というキーワードが出てくるだけであった。国際観光都市ということもあるため，外国人を単に労働者として捉えるのではなく，生活者として受け入れるという具体的な事業などを載せてもいいのではないか。これまでと同じことをやっていてもよくならないというのは，大半の方が思っていることであるため，もう少し大胆な事業を実施してもいいのではないか。

（事務局　高橋課長）

地方創生推進交付金の対象事業となるためには，総合戦略に登載されていることが前提であることから，広範に事業を掲載したいという意図もある。

外国人に係る部分，多文化共生の推進については，これまでも日本語教室の開催や外国人向けオリエンテーションの実施など，各事業を実施してきたところであり，改めて骨子（案）に掲載はしていないが，市としても今後更に重点的に進めるべき分野だと考えており，具体的な記述を記載するかは今後検討させていただきたいが，いずれにしても強化していく方向である。

（三島委員）

８ページに記載のある具体的事業で「行政事務へのＲＰＡの導入検討」とあるが，具体的にどのような業務に導入する予定なのか。

（事務局　高橋課長）

ＲＰＡというのは，ソフトウェア型のロボットが定型的な事務処理を代行して行うというものであるが，具体的にどの部分に導入するかは今後の検討となる。ただし，行政事務の効率化のためには必要なものだと考えている。

（中野委員）

５ページに記載のある「冬季イベントの拡充」について。この議論は２０年以上前の議論であって，その当時はトップシーズンの観光が飽和状態であったため，次は冬季観光に注力すべきだろうということであった。しかし現状は，トップシーズンすら観光客が減少し始めている。なおかつ，ホテルの建設が続いている中では，トップシーズンの観光に，より注力すべきではないかということをしっかりと意識していただきたい。ここ１０年ほど，トップシーズンの観光にはあまり力を入れていないように感じている。

また，「海外での観光プロモーション」について。海外に目を向けるのはいいが，今年の観光入込数を確認したところ，確かにインバウンドも微増しているが，より伸びているのは国内観光客であった。ここで改めて，トップシーズンの観光と，国内観光客の集客について，力を入れていくべきだと考える。

それから，あまり手を付けられていない部分でいうと，道南エリアの周遊観光はまだまだ強化する余地がある。新幹線開業の際にも，登別やニセコ，青森などとは連携していたが，道南地域との連携をより促進すべきだと考える。道南との連携を強化することのメリットとしては，やはり道南圏を周遊する際に拠点になるのは函館市だということ。周遊滞在することで最もメリットがあるのは函館市である。日本海側への周遊についてはまだまだ魅力を発信しきれておらず，そこを強化することによって，新たな魅力の発信に繋がり，リピーター獲得にも繋がる。もっと道南地域との連携を強化していただきたい。

（事務局　高橋課長）

いただいた意見については観光部に伝える。

（奥平委員長）

Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０の考え方をもっと取り入れて策定すべきではないか。皆さんご存知のＲＥＳＡＳは，地方自治体であれば全てのデータを活用できるという特権を持っている。それにも関わらず，函館市では活用した計画等をあまり見たことがない。他の自治体や日銀等の金融機関は，大いに活用している。そういう点で，函館市は遅れている。

Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０はつまり，ビッグデータを活用した取組を進めるということだが，例えばＲＥＳＡＳでは若年層の転出超過に係るデータで，転出する方のデータだけではなく，転出した方のうち，どれくらいの方が戻ってくるかというデータも抽出可能である。そのようなデータを戦略に掲載すれば，現実的なデータを見ることができ，次の取組などに繋がっていくのではないか。また，現状を訴える力にも変わると考える。

今後は企画部のみならず，各部局でＲＥＳＡＳを有効活用すべきではないか。データ量も多く初めは難しい部分もあるだろうが，とにかく活用してみるということは大切なことだと考える。

それから，２ページの「ＳＤＧｓの考え方」について。この説明だけではＳＤＧｓの説明になっているだけであって，総合戦略にどのように繋がっているのかまるでわからない。ここから策定までの間に，どのような流れで各事業等にＳＤＧｓが繋がり，設定されていくのかがわかるようにすべきだと考える。考え方としては重要な部分であるため，現状の説明ではもったいない。

（事務局　高橋課長）

ＲＥＳＡＳについては，人口ビジョンでデータを活用している部分もあるが，今後においては更なる活用を進めるとともに，各部局においても有効に活用できるよう促したい。

ＳＤＧｓについては，骨子（案）では考え方を記載したのみになっているが，我々としては各部局にＳＤＧｓに係るガイドラインを示したところであり，総合戦略のみならず，各種計画等を策定する際にはＳＤＧｓの要素を最大限採用するように指示した。

第２期総合戦略についても，最終的には各施策等が目指すべきゴールを示す予定で進めているところである。

（中野委員）

各基本目標についてはそれぞれ，基本的方向とそれに関する施策が紐づいているが，基本的方向で示されている内容と，各施策があまりリンクしていないように思える。これでは，これまでの事業を単に並べているだけに見える。冒頭で発言した通り，人口が減れば歳入が減り，そうした場合には歳出も減らさなければならない。人口減少が進んでいる現状で，何でもかんでも市民サービスを増やしていくということはできないのではないか。歳出を減らさなければならないため，この事業はやめます，というような決断も必要だと考える。骨子（案）からはその点で危機感が見て取れないため，素案の段階では，本当に必要なものだけを掲載し，不要なものについては落とすなど，歳出と歳入のバランスが取れた内容にすべきだと考える。

（事務局　高橋課長）

骨子（案）の段階であるため，次回お示しするまでに検討したい。

（奥平委員長）

活性化総合戦略ということで，つまり「活性化」に繋がらない事業は落とせばいいのではないか。なんでもかんでも載せているために，これまでの事業をただ列挙しているだけに見えるのではないか。活性化のために実施するものを精査したうえで載せた方が，より説得力が増すと考える。

（事務局　高橋課長）

現在の表現では活性化につながる事業であることが見えにくいため，載せ方を検討したい。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３　そ　　の　　他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（事務局　高橋課長）

次回開催については１月を予定している。時期が来たら改めて連絡したいと考えている。その際にはよろしくお願いしたい。

（中野委員）

次回が素案ということで，具体的なＫＰＩなども入ると思うので，事前に資料を早めに送付していただき，こちらからの意見なども出せるようにしてもらいたい。

（事務局　高橋課長）

承知した。

（奥平委員長）

それでは，事務局に進行を返すこととする。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４　閉　　会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（事務局　高橋課長）

これをもって，令和元年度第２回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議を終了する。

以上